

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな	ゆうげんがいしゃ げきだんつのぶえ			団体ウェブサイトURL
制作団体名	有限会社 劇団角笛			
代表者職・氏名	代表取締役 白石武士			
制作団体所在地	〒	176-0014	最寄り駅(バス停)	西武新宿線 野方駅
	東京都練馬区豊玉南2-22-6			
電話番号	03-3994-7624			
ふりがな	ゆうげんがいしゃ げきだんつのぶえ			団体ウェブサイトURL
公演団体名	有限会社 劇団角笛			
代表者職・氏名	代表取締役 白石武士			
公演団体所在地	〒	176-0014	最寄り駅(バス停)	西武新宿線 野方駅
	東京都練馬区豊玉南2-22-6			
制作団体 設立年月	1963年8月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役/白石武士 取締役/白石昭子 取締役/白石奈美		舞台部8名、製作部1名、作家1名 加入条件/劇団の入団試験に合格した者	
事務体制(専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名		白石武士
経理処理等の監査担当の有無	有	経理責任者名		白石奈美

<p>制作団体沿革</p>	<p>1963年8月影絵人形劇専門劇団として設立しました。以降、毎年全国各地の文化施設等において、民話や名作童話、童謡を影絵人形劇の手法により、子どもたちへ夢と感動を届ける趣旨のもと、活動を続けています。</p> <p>その間に、東京都優秀児童演劇選定優秀賞や厚生省中央児童福祉審議会特別推薦や推薦を多数受賞しました。1968年『ないた赤おに』、1976年『りゅうとびわ』、1978年『こぶたのマーチ』、1983年『伝兵衛と鹿』、1992年『ごんぎつね』、1995年『やさしいライオン』、1997年『花さき山』等です。</p> <p>また、海外12ヵ国での公演実績もあります。1982年、1985年フランス公演(民主音楽協会派遣)、1993年香港公演(角笛を観る会実行委員会主催)、1995年インドシナ5カ国公演(国際交流基金主催)、2001年韓国公演(LGアートセンター招聘)、2002年中近東2カ国公演(国際交流基金派遣)、2012年アメリカ公演(桜寄贈100周年記念事業)、2016年シンガポール公演(国交50周年事業)です。</p> <p>公演活動の他、テレビ番組制作へ影絵協力もしています。2018年NHK BS4K「映像詩 宮沢賢治 銀河への旅～慟哭の愛と祈り～」、2021年NHK BS4K「Black Samurai 信長に仕えたアフリカン侍・弥助」等です。□</p> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>1963年創立当初から1974年頃までは学校公演を中心に活動しておりましたが、近年、学校公演はほとんど行っていません。近隣の豊玉南小学校(練馬区)では、校舎改築前の2009年まで、年1回試演会を行っていました。改築により搬入車両が入れなくなり、以降は行っていません。</p> <p>2012年東海市立横須賀中学校文化祭では、英語版『かぐや姫』を上演しました。□</p> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>養護学校、聾学校(日本児童演劇協会の依頼公演)での公演実績はあります。</p> <p>1989年八王子東養護学校(東京)</p> <p>1995年上尾養護学校(埼玉)</p> <p>1998年あけぼの養護学校(山梨)</p> <p>2000年栃木県聾学校、群馬県立聾学校、松本聾学校(長野)</p> <p>2001年長野県立諏訪養護学校、こまどり養護学校(富山)</p> <p>2002年茨城県立水戸聾学校、茨城県立霞ヶ浦聾学校</p> <p>※劇団主催の高島市民会館公演、かつしかシンフォニーヒルズ公演では、毎年特別支援学校の児童が団体観劇として参加されています。□</p> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/o7wfB_Gx_G0</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<input type="text"/>
<p>PW:</p>		<input type="text"/>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 有限会社 劇団角笛 】

対象	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	-	
企画名	角笛シルエット劇場「ごんぎつね」他		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「ごんぎつね」原作/新美南吉 脚本/山上路夫 音楽/渡辺岳夫 演出/角笛文芸部 「影とあそぼう」演出・構成/角笛文芸部 「つのぶえのうた」演出・構成/角笛文芸部 三部構成 公演時間(約90分) ※休憩時間、舞台裏見学時間を含む 公演時間 約 90 分		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの 要否	該当あり	該当コンテンツ名 つんぶえのうた
	該当事項がある 場合	権利者名 日本音楽著作権協会	許諾確認状況 採択後手続き予定
演目概要	角笛シルエット劇場は、劇団独自の技法を駆使した影絵人形劇です。大型リアスクリーンを使用した色鮮やかなシルエットが特徴です。以下の三部構成でお届けします。 「ごんぎつね」では光と影の芸術的、視覚的な美しさにより、登場人物やごんの繊細な動きや心情を表現します。(約20分) 「影とあそぼう」では影のしくみや簡単な影絵の作り方を紹介します。その後、代表の子ども達がワークショップで学んだ事を活かして共演します。(約30分) 「つのぶえのうた」は多彩な技術を組み合わせた変化に富んだ影絵と、軽快なリズムや音楽を融合させた、うたと影のファンタジーです。(約20分) 公演終了後、クラス毎に舞台裏を見学をします。(約10分、但し、見学の人数により異なります。) ※途中休憩10分		
演目選択理由	「ごんぎつね」は、子ども達が登場人物やごんの心情の変化を感じる事で思いやりや共感する事の大切さ、難しさについて感じる事ができる作品です。影絵劇で表現された「ごんぎつね」を鑑賞する事により、子ども達が作品理解をより一層深め、豊かな心を育みます。 「影とあそぼう」は、子ども達の影や自然現象への関心、興味を促す内容です。影は見る者の想像を掻き立て、創造力を養う事に適した題材です。また、身近な友達が出演する事により、影に対する親しみや関心を持って鑑賞する事ができます。 「つのぶえのうた」は、音楽と影絵をコラボレーションした作品です。軽快な音楽と調和した影絵表現は、音楽を共有する楽しさだけでなく、「不思議」や「発見」があります。		
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	本公演当日、子ども達が「影とあそぼう」の一部で共演します。ワークショップで体験した事を生かし、子ども達が思い通りに表現できるよう、劇団スタッフが的確にアドバイスします。(照明や音響は劇団スタッフが担当します。) ①共演する子ども達は劇団スタッフの呼び掛けで舞台裏へ移動します。 (移動のタイミングは事前に担当教師と打ち合わせます。) ②劇団スタッフのサポートを受けながら、共演の準備をします。 ③大型スクリーンに影絵を映します。共演する子ども達が準備、表現する場面では司会者(劇団スタッフ)が何をどのように組み合わせているのか、どのように変化しているのか、観る側の子ども達も想像しながら、楽しく鑑賞できるような解説や問いかけをします。		
出演者	<舞台監督兼照明>磯野航 <音響兼大道具>藤井昭夫 <大道具兼人形操演>下井理裕 <照明兼人形操演>山中勉、磯貝愛愛花 <人形操演>多田京音、向井亜実 <司会兼人形操演>田村未知		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 8 名 スタッフ: 1 名 合計: 9 名	運搬	積載量: 4 t 車長: 6.93 m 台数: 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間	2	時間程度	
	本公演が午前中になる場合は前日の仕込みが必要です。					
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～11時	13時30～15時	10分	15時～16時30分	17時
※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択 決定後に確認します。(大幅な変更 は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	5日	5日	5日	10日	10日	
	11月	12月	1月	計	60日	
	5日	10日	10日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10名
		鑑賞人数目安	500名

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。



(図1) 体育館にスクリーンを設置した状態

体育館のフロアに縦4.5m横7.8mのスクリーンを設置します。
電源や入口などの位置関係により、スクリーンの設置位置は変わる場合があります。



(図2) 舞台裏の様子

スクリーン裏に複数の照明機材、人形、セット、音響機材などを設置します。



(図3) 上演の様子

公演中は斜光し体育館の照明を落として上演します。

【公演団体名 有限会社 劇団角笛 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	35名
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>「身近な物を使って影絵を作ろう！」</p> <p>子ども達は身近な物や身体の影を映し、影の楽しさや魅力を体感します。グループワークでは子ども達自身の影、身近な物の影を合わせ、協力して1つの影絵を作ります。</p> <p>※影絵は作品として残らない為、写真を撮影し記録します。</p> <p>①導入、劇団スタッフによる実演 影の特性を紹介し、子ども達に影絵への興味、関心をもたせます。 そして「どのようにして影絵を作るのか」解説を交えて劇団スタッフが実演します。</p> <p>②実験 子ども達が影にしてみたい物や身体を実際に壁やスクリーンに映します。子ども達自身が映す物を選ぶ事で、主体的に関わり、探求心を刺激します。どんな影ができるのかを想像しながら、角度や大きさにより変化する影の面白さと不思議さを体感します。</p> <p>③グループワーク 映した物の影が1つの影絵になるように話し合いながら、グループで工夫して1つの影絵を映します。ここでは他者と対話し、1つの物を作り上げる喜びを体験します。 ※テーマを設定するなどして、学年に応じた内容にします。</p> <p>④発表、振り返り グループ毎に「表現する立場」と「鑑賞する立場」にわかれて、お互いの表現を見合い、感想を話し合います。子ども達はグループワークを通して協働的に学びます。</p>		
ワークショップの ねらい	<p>影は光のあて方次第で様々に変化する為、子ども達に自由な発想を促します。この影の特性により、身近な物でも自由な表現ができる影絵の面白さを体験し、表現力や想像力を養う事をねらいとします。また、グループワークや発表により、作品をより良くしていく協働的な学びになる事を目標とします。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p><ワークショップ実演例></p> <p>1. スクリーン正面からみた影絵</p>  <p>2. 影絵を映している様子</p> 		